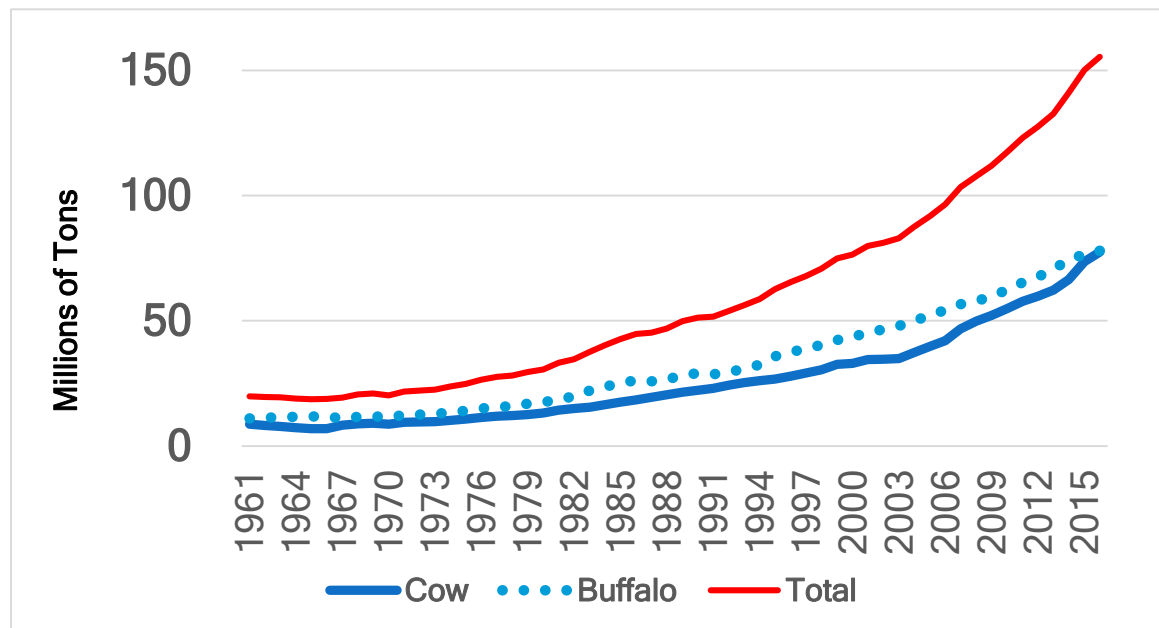
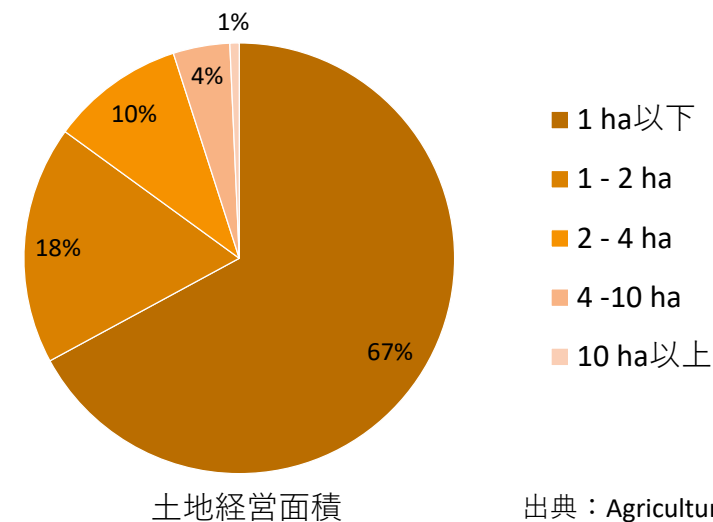


インド 酪農開発事業

国際協力機構（JICA）
南アジア部南アジア第一課
国武 匠

インド 酪農の現状（１）

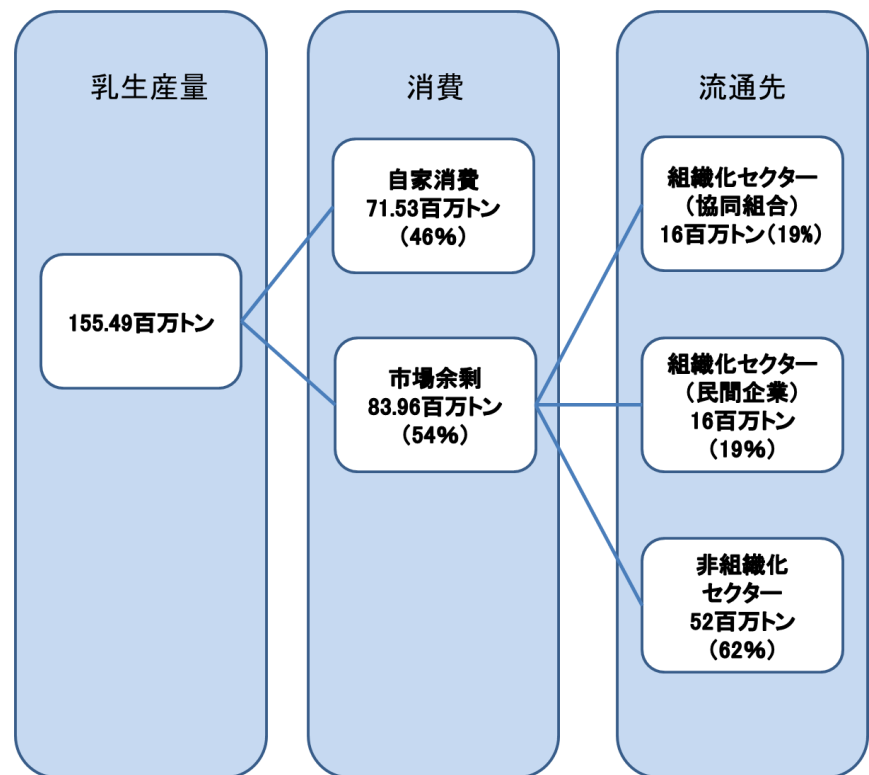
	Country	Milk production (1,000 tons)	Ratio
1	India	155,416	19.2%
2	U.S.	96,359	11.9%
3	China	40,285	5.0%
4	Pakistan	38,789	4.8%
5	Brazil	32,672	4.0%
6	Germany	30,495	3.8%
7	Russia	30,495	3.8%
8	France	24,482	3.0%
9	New Zealand	21,672	2.7%
10	Turkey	16,842	2.1%
	Total	810,436	100%



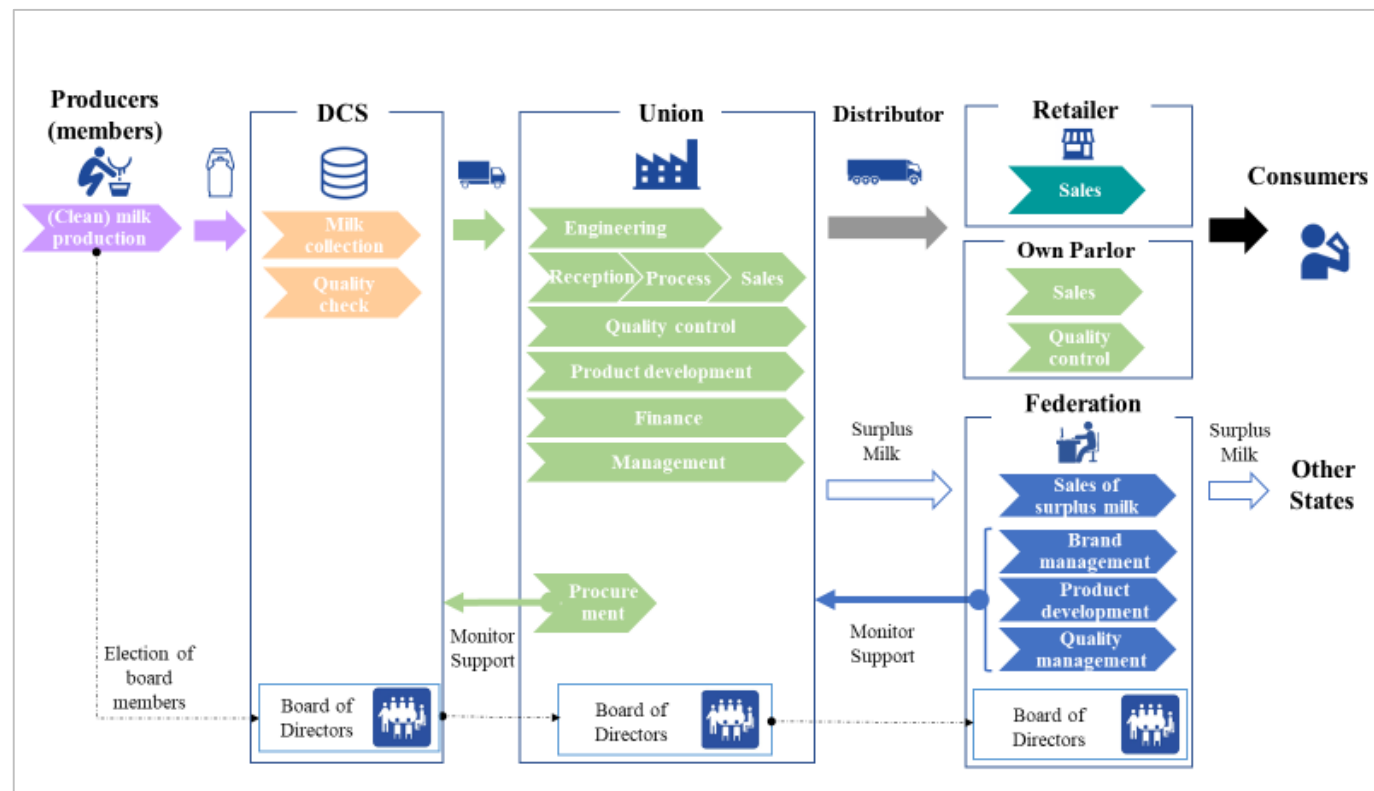
出典：FAOSTAT

- ✓ インドは世界最大の乳生産国。
- ✓ 経済成長に伴い需要が増加、乳生産量も年々増加傾向。
- ✓ 現在は自給しているが、供給能力が不足すると国際市場への影響の可能性あり。
- ✓ 生産者の集約化は進んでおらず、4頭以上の乳牛を所有する農家は全体の8%。²

インド 酪農の現状（２）



インドでの乳の流通経路



酪農協同組合による乳のサプライチェーン

- ✓ 生産量の約半分が自家消費。市場流通分の**40%**がコールドチェーンが整備された近代的流通網で流通。
- ✓ 近代的流通網の半分を酪農協同組合が担う。
- ✓ 酪農協同組合が小規模農家にマーケットアクセスを提供。

酪農開発事業（１）



候補州：
ウツタルプラデシュ州
ビハール州 等

	コンポーネント	活動/対象資機材、インフラ
A	牛乳調達インフラ強化	大型冷蔵タンク（BMC）、牛乳集荷タンク、冷却ユニット、発電機、自動牛乳収集ユニット（AMCU）、BMCアクセサリ、電気牛乳混入度試験器具、再生エネルギーシステム（太陽光）、コンピューター/ラップトップ/タブレット、新DCS管理の為の初期運営費用
B	加工製造施設強化	土木工事、加工・生産設備、サービス設備、各種関連設備工場建設
C	流通インフラ支援	ウォークイン冷蔵店舗、ミルクパーラー、冷凍庫、冷蔵ショーケース、断熱箱、品質管理証明、マーケティング活動のための初期運営費用
D	ICTインフラ支援	デスクサイドネットワークインフラ、アプリ実施、アプリソフト、サーバー・ネットワーク費用、支援費用
E	生乳の生産性向上	家畜飼料、ミネラル混合物、移行期飼料、泌乳前期用飼料、牧草種、芝刈機、干草細断機、ミクロトレーニングセンター、牧草貯蔵庫

事業概要（円借款事業）

（１）事業目的

酪農農家の近代的流通網へのアクセス改善、酪農協同組合の乳業機材及び流通インフラの整備、酪農協同組合の能力強化等を行うことにより、近代的流通網で取引される乳及び乳製品の販売量の向上を図り、もって事業対象地域の酪農農家所得の向上に寄与するもの。

（２）活動

- ① 中長期資金の供与
- ② 能力強化（経営能力、衛生管理能力等）
- ③ 調査（マーケティング調査等）

（３）事業対象

乳生産量が多く、社会経済指標が低い州

（４）実施機関

全国酪農開発機構（National Dairy Development Board, NDDB）

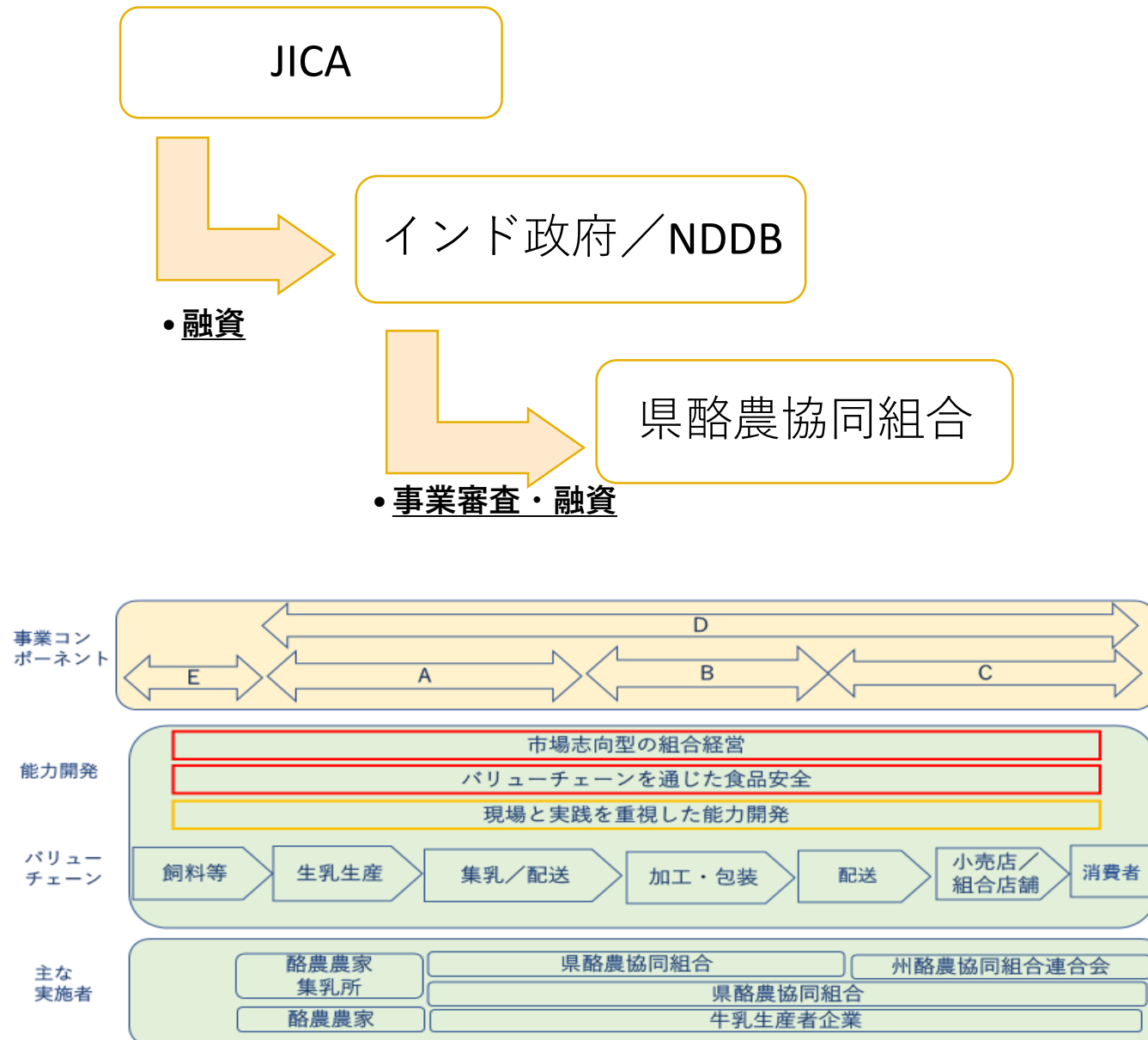
事業費及びスケジュール

総事業費：229.9億円

円借款額：149.8億円

実施スケジュール：2018年12月～2023年11月

酪農開発事業（２）



中長期資金の供与

- ✓ 酪農協同組合が事業計画を作成。NDDDBが審査の上資金供与を行う。
- ✓ 乳業に関わる機材・施設を整備。

能力強化

- ✓ ハードの投資だけでなく、機材・施設投資に関わる能力強化（各種研修）を実施。
- ✓ 特に経営改善と衛生管理に注力。

酪農開発事業（3）



ホテルニューオータニでの本邦企業との意見交換会



帯広での現場視察（酪農組合、乳業工場）

本邦研修

- ✓2018年に政府、協同組合幹部を対象に一度実施（帯広、東京、長野）。
- ✓事業実施期間中（～2023年）は現場職員を対象に食品衛生管理、経営改善のための研修を実施予定。
- ✓本邦の酪農関係者との交流の場も設定する予定。